

全てバッテリー車両にすることで「静音化」「低公害化」を実現

穴掘建柱車 D70A ハイブリッド仕様

株式会社 荻荘電機 様

作業チーム全体で 静音化と排ガスカット

新潟市に本社を置く株式会社荻荘電機様は、平成23年に創立50周年を迎えた電気工事会社だ。東北電力株式会社様の配電線工事（電力工事）を手掛け、公共・民間建築物の電気設備工事も行っている。同社は、アイチの穴掘建柱車を2台所有していたが、平成27年3月、全国に先駆けて穴掘建柱車D70Aハイブリッド仕様を導入し、同車両の納車第1号となった。

同社の荻荘社長は、導入の狙いを次のように語る。「ここ1、2年で電柱の建て替え工事が増えています。公道での作業ですから、排気ガスや騒音で近隣の方にご迷惑をお掛けしないのが理想ですし、地球環境を考えるとCO2排出量を減らすための努力もしなくてはなりません。もちろん、作業員にとって安全で身体にも優しい作業環境の実現も必要です。また、保有していた穴掘建柱車は、導入してからすでに20年が経っていることもあり、車両更新を考えていました。そんな時に、アイチさんからハイブリッド穴掘建柱車の試作車が完成したとご案内を頂きました。すぐに試

乗をさせてもらい、実際の現場でも使用させていただきました」。

湯浅統括部長は、「バッテリーモードだと音も静かだし、排気ガスもゼロと期待通りでした。作業員同士の声がよく通るので、埋設物があり、オーガをすぐストップしなければならないような状況でも、指示すればすぐに止めます。安全確保と埋設物の破損防止に役立つと確信しました」と高く評価し、荻荘社長に導入を要望したという。

コミュニケーションがとりやすく スムーズに安全に作業が進められる

今回取材した作業現場の責任者である小林課長も、「電柱の建て替えは、重量物を扱う作業なので、安全には万全を期しています。電柱を吊り上げる際に、作業員とオペレーターが連携して作業しますが、バッテリーモードならではの静かさなので、大声を出さなくても、普通にオペレーターに指示の声が聞こえます。作業員同士のコミュニケーションがとりやすいので、作業をスムーズで安全に進められます」とメリットを強調した。地盤が固い場所や、水が出て土砂が穴に流れ込

むため迅速に作業しなければならない場合には、作業スピードを優先し、エンジンモードやハイブリッドモードに切り替えるそうだ。

建柱作業では、建柱車とともに高所作業車も1~2台同時に作業を行う。同社の所有する高所作業車はすべてバッテリー車。作業チーム全体で静音化、低公害化を実現している。特に騒音に気がつかう深夜作業では、この特長が活かされる。作業の静音化への徹底したこだわりの背景には、荻荘社長のある想いがある。「作業員が騒音を気にして萎縮しては可哀想。仕事に対して誇りを持ってもらいたいので、苦情の出ない作業環境を構築したいのです」。

同社は、創業当時よりアイチの車両を導入し機械化を進めてきた。それ以来ずっとアイチの車両を使用している。湯浅統括部長は、「ブランドの信頼性が高い。当社のニーズに合った車両や機能がありますし、操作面で一貫性が確保できるのも大きいです」と継続導入の理由をこのように述べ、さらに荻荘社長は、「D70Aハイブリッド仕様は、経済産業省の生産性向上設備投資促進税制で適用機種となっており、100%即時償却ができたため、節税効果も大きかった」と語ってくれた。



音には気がつかう住宅街の作業だが、D70Aハイブリッド仕様の導入で作業員の精神的負担を軽減



D70Aハイブリッド仕様第1号車の納車セレモニー



バッテリー駆動のオーガによる掘削作業



D70Aハイブリッド仕様と高所作業車、排土を運ぶトラックが連携した、建柱と撤去工事の様様



株式会社 荻荘電機
荻荘 賢一
代表取締役社長



株式会社 荻荘電機
第一工事事部
湯浅 宏一 統括部長



株式会社 荻荘電機
第一工事事部 工事三課
小林 直之 課長